

2023年10月12日

福岡県への観光客誘致に向けた上海事務所の取組について

上海事務所長 末永 尚也

1. はじめに

中国政府は2023年8月10日、日本や米国、韓国を含む世界78か国・地域への団体旅行を再開した。日本への中国人の団体旅行は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い2020年1月から停止しており、約3年半ぶりの再開となった。

当事務所では、福岡県を旅行先として選んでもらえるよう、このような規制の緩和を見据えて、これまで様々な活動に取り組んでおり、本レポートではその模様や今後の取組について報告する。

2. 上海事務所の取組やその反応について

(1) 福岡県体感ツアーイベントの開催（2023年3月）

福岡県と江蘇省との友好提携30周年事業の一環として、江蘇省蘇州市の日航ホテルにおいて、「福岡県体感ツアーイベント」を開催。江蘇省政府関係者をはじめ、日中ビジネス関係者、江蘇省内の旅行会社などの招待客や事前応募した一般客計約700名が来場した。

福岡の飲食店とライブ配信でつなぐオンラインツアー、八女茶を使用した茶道文化体験などの催しや、福岡県産和菓子をはじめとした、計65種の県産食品や酒の試食・販売など、イベントには福岡県をより身近に感じていただけるような体験の要素をふんだんに盛り込んだ。



(写真)八女茶を使用した茶道体験の様様

来場者からは、「いい景色を見たり、様々な体験もできることが分かったので、今年予定している日本への旅行では目的地をぜひ福岡にしたい」「今回のイベントでもつ鍋を初めて食べた。福岡に行ってぜひ店舗で味わいたい」などの反応が聞かれた。また、参加者がイベントでの体験をSNSで発信することで、その情報の拡散にもつなげることができた。

(2) 旅行会社向けセミナー、交流会への参加（2023年8月）

北部九州4県、九州7県で連携した旅行会社向けセミナーを、上海市内でそれぞれ1回開催し、華東地域の主要旅行会社延べ90社が参加した。当事務所では、来海した福岡県観光連盟とともに、観光情報のプレゼンや旅行会社と

のコネクションづくりに取り組んだ。

旅行会社の体制や人員もコロナ前と大きく変容しており、多くの最新情報の提供を通じて九州、福岡を認知してもらう良い機会となった。

一方で、旅行会社担当者にとって、福岡は九州旅行の玄関口や買い物するエリアという印



(写真)旅行会社向けセミナーの様

象が強く、観光地としてのイメージがまだまだ薄いのが実情であった。県内を周遊するツアーを造成してもらえよう、しっかりと情報をインプットしていく重要性を改めて感じた。

(3) 寧波ジャパンブランドへの出展 (2023年8月)

浙江省寧波市の寧波阪急百貨店で開催された、「寧波ジャパンブランド」に福岡県ブースを出展し、福岡県の観光PRや八女茶飲料の試飲を行った。

本年7月から、春秋航空が福岡-寧波の直行便を新規就航したことを契機に出展したもので、ブースには、当該便を予約し福岡への旅行を計画している方も複数来場され、具体的なおすすめスポットの紹介などを行った。

直行便就航により、他の来場者も福岡への関心を持っている方が非常に多く、関心のある方へ効果的に情報発信ができ、有意義な機会となった。

3. 今後の取組について

日本への団体旅行の販売解禁に加えて、福岡空港と中国大陸を結ぶ航空便の数も、9月末時点でコロナ前の約55%まで回復してきており、これに伴い航空運賃が下がれば、福岡へのツアー造成の意欲が高まってくることが期待される。

一方で、当地旅行会社へヒアリングを行ったところ、8月24日から始まった福島第一原子力発電所処理水の海洋放出に伴い、予約済みの日本向け旅行をキャンセルする動きや、ツアーの催行そのものを断念する動きも一部出ているとのことだ。

筆者の個人的な感触だが、中央政府の姿勢や、職場や地域社会の目を意識し、(本当は日本に行きたいけれども)やむなく日本への旅行を回避する動きによるものが多いのではないかと感じている。

8月末に面会したある地方政府の関係者からは、こういう時だからこそ、地方や民間レベルでの交流を地道に続けることが、日中双方の交流の維持、発展のために重要だとの話も聞かれた。

当事務所としては、引き続きイベントや旅行会社向けのセミナー開催等を通じたプロモーションに取り組むとともに、SNS等を活用した情報発信に精力的に取り組んでいきたい。様々な機会を捉えて、PRを行っており、中国市場に関心がある県内観光関連事業者の皆様は、当事務所へお気軽にご連絡頂きたい。